

1-1

演題 自立排泄の重要性

副題 ～あ～気持ちいい！～

法人名

施設名 特別養護老人ホームシャローム

発表者名
(職種) 小島 武

共同発表者 佐藤 惇也

共同発表者

共同発表者

共同発表者

都道府県 神奈川県

住所

TEL

FAX

メールアドレス

URL

今回の発表施設 またはサービスの 概要

1984年8月より横須賀の走水という地域で50床から始まり、1988年5月に重度認知症専門棟を増設し、ショートステイも含めて120名の入所施設です。キリスト教福祉の理念である「いのちを敬い いのちを愛し、いのちに仕える」職員の育成につとめています。

研究の目的、PR ポイント

生活介護を行うにあたり、排泄介助は欠かす事のできない支援の一つです。トイレで排泄を行う事は、身体的側面、社会的側面、文化的側面で意義があり研究目的としました。

取り組んだ課題

トイレで排泄を行う事は、前傾姿勢をとり、足が開き、床に付く姿勢が解剖学的にも最も適しています。ADLが低下している利用者のトイレ介助時に「トイレで便が出る」ことにスポットを当て、失禁を減らし1回でも多くトイレでの排泄が出来る事を目標に取り組みを行いました。

具体的な取り組み

- ・ 前傾姿勢を取りやすい洋式トイレ用手摺りの設置
- ・ 後屈してしまい座位姿勢保持することが難しい方の為に背もたれの設置
- ・ 今回取り組みのためにピックアップした数名の利用者の排便パターンの再確認
- ・ 下剤服用、坐薬挿入以外での排便コントロールの為に離床直後の水分補給や乳酸菌飲料を使用
- ・ 排泄パターンを把握した上で利用者にあったタイミングにトイレ誘導し、1人10分から15分くらいを目安にトイレに座って頂く

活動の成果と評価

今回、入居棟コロナのクラスターもあり、職員の人材や時間をとることが難しくなり、取り組み期間が少ない中でしたが、トイレで座位を保つ事の重要性を理解し、トイレに座ることにより排便が出る事を支援することが出来ました。介護方法やトイレ内の用具等環境を整えることで、利用者の自立に繋がることを実感し、今後も継続して行っていく意義を見出す事が出来ました。

今後の課題

当施設だけではなく、どの施設も人的資源が限られています。取り組みが職員の負担だけになることな

く、今回の成功体験から他利用者の方にも継続して行なっていくことで、利用者の方のトイレでの排便、自立した排泄に少しでも近づけていければと願っています。

利用者のADLが向上することで、QOLの向上に繋がりを、職員のやりがいにも繋がる望ましい形となります。

参考資料など

排泄ケアナビ

<https://www.carenavi.jp/ja/home.html>